

I 日韓交流学習の目的とかたち

1. 隣国のことばと文化を学ぼう～日韓交流学習とは



日本と韓国は距離的にも言語文化的にも非常に近い国でありながら、その歴史的経緯から両国の間には現在もお共に解決すべき問題が残っており、長らく「近くて遠い国」と言われてきました。しかしそれは多くの場合、マスメディアの報道や自国中心の教育から形成されたイメージによって生まれてしまったものではないかと思われまます。これからの日韓の未来を築いていく若者にとって必要なのは、自分の目と心で事実を知り、分析し、自ら判断する力だと考えます。実際に人との触れ合いを通して学ぶ「交流学習」は、自らの体験をもとに主体的に物事を捉え、分析するプロセスを通して新しい認識を促し自らを変容させる可能性のある方法だと考えます。

近年、日韓の経済的・人的交流が深まるにつれ、学校教育現場でも姉妹校を中心に、修学旅行や研修旅行などで交流を行っている学校が数多くあります。こうした機会が日韓の生徒間の相互理解を促す大きなチャンスになることは間違いないでしょう。しかし、中には交流を行いたくても、姉妹校がない、具体的な交流の方法がわからないという理由で実施できずにいる先生も多いようです。このサイトではそのような先生方のために日韓交流学習の一例をご紹介しますと思います。







このサイトでは取り上げる日韓交流学習を「ことばと文化を学ぶ」目的のものに限定しています。具体的には韓国の高校生と日本の高校生が日本及び韓国の言語文化を学ぶ際の互いの学習を助ける交流学習の在り方を考えようとしています。日韓の真の相互理解を目指すならば、日韓双方が互いの言語文化を学ぶというバランスが大切だと考えているからです。実際のところ、多くの韓国の高校では第二外国語として日本語が教えられていますが、日本で韓国語を学ぶことができる高校は僅かであり、現状はとてもバランスが取れているとは言えません。日本の教育制度に第二外国語教育がきちんと組み入れられていないことがその原因であり、その根本的解決は容易なことではありませんが、現在韓国語教育を行っている学校から着実にその教育の意義及び成果を示していき、次の段階へと繋げていくことが大切だと考えます。なお、本サイトが主に扱っているのは、韓国語と日本語の授業の中に交流学習を取り入れた事例ではありますが、一般的に多く行われているのは、韓国語の授業がない日本の生徒と日本語の授業がある韓国の生徒との交流活動だと思います。そのような学校間交流では、必要に応じて英語を共通言語とし、日韓の文化を素材としながら日本語と韓国語を少しずつ取り入れるという方法もあるでしょう。本サイトで紹介する授業事例がそのような交流学習のアイデアを生み出す一助になれば幸いに思います。



学校教育現場における日韓交流はこれまで社会科教育、異文化間教育の分野で実践が重ねられ、発展してきました。日本語や韓国語の教育現場においてはまだその実践報告が多くありませんが、発展の可能性は大きいものと考えます。韓国そして日本の現行の学習指導要領の外国語科目では「生きたコミュニケーション活動と文化理解」、「学習者志向・学習者参加型の活動」を通じてコミュニケーション能力、文化理解の態度を育成することが重視されています。本サイトで紹介する日韓交流学習は、日韓の生徒同士がそれぞれの生活について「発信」と「受信」という活動を通し、相互に学習を高め合うことを目指しています。

2. 日韓交流学習の意義

日韓交流学習に参加した生徒の声です。

- ・日本ではあまり韓国に関心を持っていないと聞いているが、韓国人について知ろうとしているのがすごい 
- ・楽しくできたことで、コミュニケーションをとったりハングルを書いたりすることが以前よりできるようになった 
- ・「韓国のお友達も一生懸命頑張って日本語の勉強をしているのだから、絶対に私も負けずに韓国語の勉強をしなければ」と勇気づけられ、とても励まされた 
- ・わからないことを全部教えてくれて、一つ一つ説明してくれて、親切さに感動した 

高校時代に交流学習を経験した高橋裕美さんにインタビューしました。

Q 高校生のとき、韓国語を勉強したのはどんな理由からですか。

A 韓国語に興味を持った最初のきっかけは冬のソナタを見たことです。韓国ドラマにはまり、東方神起にはまり、東方神起5人が全く分からなかったという日本語をスラスラ話しているのを見て、刺激を受けました。韓国で東方神起が出演した番組を見て、彼らが言っていることを聞き取れるようになりたいと思いました。それで私も韓国語を勉強しようと思いました。

Q 韓国の生徒との交流学習はどうでしたか。

A 韓国の人と関わることは初めてでした。顔も知らないし授業を通して知り合っただけなのに、文化や習慣の違いを学び、ビデオレターや文通をしたり…文通の返事が来るのがとても楽しみでした。同じ高校生に教えてもらったことで、日本と同じことや違うことなど様々なことに興味を持ちました。毎回の授業がとても楽しみで、時間が経つのがあっという間でした。

Q どんな活動が印象に残っていますか。

A 文通したことや、自分の生活や食べ物、鞆の中を画用紙にまとめて書いて交換したことがとても印象的です。家に帰ったら昼寝をしてパソコンをして、漫画を読んで…自分の生活とあまり変わらないので安心しました。韓国の高校生は大学受験まで勉強一筋だと思っていたので。

Q 卒業後も韓国語を学び続けていますか。

A はい、今でも韓国語を勉強しています。今は大学で韓国語の授業をとっています。英語を勉強するよりも韓国語を勉強する方が楽しいと感じます。交流を通して知り合った子と今でも文通をしたり…大学生になってから韓国人留学生と交流する機会も増え、韓国ドラマで字幕がなくてもわかる言葉が出てくるととても嬉しいし、字幕なしでも全部理解できるようになりたいです。あとは文通している子と普通に韓国語で話がしたいからです。韓国に初めて行った時に、初めて1人で道に迷いました。夜遅くて人も少なく、声をかけたおじさんは日本語が分からない人だったので、あたふたしながらも必死に韓国語で訴えました。私の韓国語を理解してくれてホテルま

まで送ってくれたとき本当に嬉しかったし、もっと韓国語を勉強しないと！と思いました。

Q 卒業後、交流学習の経験が活かしていることがあったら教えてください。

A 交流した子とは文通やメールをして、誕生日にはプレゼントを贈ったり、お互いの国で流行っている物を送ったり…大学1年の冬休みに初めて韓国に行った時、彼女と初めて会いました。私の人生の中で、彼女との出会いは初めてだらけでした。授業での文通からの関係で、しかも外国人で…外国で知らない人と会うなんて考えたこともありませんでした。初対面で緊張し、どうしたらいいのかわかりませんでした。韓国語の勉強をしているのに、うまく話せませんでした。でも私のことを「オンニ」と呼ぶ彼女に対し、親近感が沸き、もっと韓国語で話したいと思いました。市場での値切り方や韓国料理の食べ方、韓国のプリクラなど、色々教えてくれました。交流活動での出会いが、私が今でも韓国に興味を持ち、韓国語を学んでいる理由の全てだと思います。

高橋さん、ありがとうございました。

日韓交流学習はこのように生徒の学習モチベーションを高められることはもちろん、隣国にも一緒に学びあい、高め合える仲間がいることを実感できる活動としても大きな可能性を持つものと考えます。



日韓交流学習の意義としては上記の他、教師同士の学び合いを加えることができます。交流学習のデザインに教師の協働は欠かせません。教師が互いにアイデアを出し合う中で、より豊かな学びの場が形成されていきます。交流相手校の教師との打ち合わせ、アイデア、情報交換を通して自分にはなかったものの見方を知ったり、新たな授業方法を学んだりすることができる、これもメリットの一つと言えるでしょう。



3. 日韓交流学習の種類

現在さまざまな学校で行われている実践事例を「対面型の交流学習」と「非対面型の交流学習」に分類し、それぞれの概要をまとめます。

対面型	非対面型
①オフライン交流 A 交流会を行う B 韓国語・日本語の授業に参加する C 一緒に課外活動をする ②オンライン交流	①個人単位 ②クラス単位

対面型の交流学習

修学旅行や研修旅行の機会を利用して姉妹校などを訪問し、実際に生徒と対面しながらコミュニケーションを図り、学び合う「オフライン交流」と、コンピューターとWebカメラを使用して、遠隔地にいながらも対面して学び合う「オンライン交流」に分けられます。

①オフライン交流

A 交流会に参加する

学校訪問では交流会が行われることが多くあります。韓国の慶福ビジネス高等学校と旭川実業高等学校との間で行われている交流会では、さまざまなアクティビティーを通して生徒同士が親しく交流できるよう工夫しています。1時間半程度の交流会(「友情の時間」とされています)の時間に、韓国の生徒は学習中の日本語を使って日本の生徒と自己紹介をしあったり、プレゼント交換をしたり、ゲームをしたりしながら親睦を深めます。日本の生徒が韓国の高校を訪れたこの交流の時間は、全て韓国の生徒が進行し、ゲームのやり方も全て日本語で説明しています。



B 韓国語・日本語の授業に参加する

学校訪問をした生徒が外国語の授業に参加し、会話のパートナーになりながら交流する例もあります。2009年、大阪府立阪南高等学校（任喜久子先生担当）では姉妹校の生徒3人を受け入れ、その生徒たちが2年生（受講生10名）と3年生（同5名）の韓国朝鮮語の授業に参加しています。2年生の授業では韓国の生徒に自己紹介をしてもらい、その内容聞きとりと、「名前・住んでいるところ・好きな歌手」についてインタビューし、聞きとった内容をシートに記入するという教室活動を行ったり、ハンゲルの名刺（プリクラ写真なども自由に貼って）を作って交換会をしたりしながら、コミュニケーションを図る交流学习をしました。

2年生よりも学習が進んでいる3年生の授業では昨日の出来事について（昨日何時に起き、どこで誰と何をしたか、など）日本の生徒は韓国語で、韓国の生徒はその訳を日本語で述べるという方法でどれだけたくさんの内容が言えるかを競うペア対抗の発表大会も行っています。

C 一緒に課外活動をする

中山外国語高等学校と中央大学杉並高等学校では夏に合同のサマーキャンプを行っています。一週間ほど韓国あるいは日本を訪れ、ホームステイや学校訪問を行います。その中で一泊二日の合同キャンプが行われており、少年自然の家などを利用して両校の生徒がともにリクリエーション、地引網体験、野外炊飯などの共同作業、キャンプファイヤーなどをともにし、交流を深めます（2009年の例）。韓国の生徒が日本語を専攻しているため、日本語での意思疎通が基本となっていますが、日本の校内には韓国語の挨拶や簡単な会話表現がポスター化されて掲示されており、互いに学び合うムード作りがなされています。

②オンライン交流

直接会うことができない場合でも、インターネットを通じて交流学习を行うことが可能です。インターネットの接続可能な教室であれば、Skype（スカイプ）やMSNメッセンジャーなどのソフトを活用してリアルタイムでの交流ができます。

宮城学院高等学校の高大連携授業では、Skypeを使用した交流学习を一学期に1～2回実施しています。日本語を学ぶ韓国の生徒と韓国語を学ぶ日本の生徒が毎回のテーマに沿って、習った日本語や韓国語を使ってshow & tell（物を見せながら紹介）をしたり、相手の生徒にインタビューをしたりする活動が行われています。手紙や資料の交換といった、非対面型の交流も並行して行っています。



兵庫県立西宮今津高等学校では「国際文化」の授業においてテレビ会議システム（回線で遠隔地を接続し、テレビを通して遠隔地にいる者同士が対面して会議を実現するシステム）を活用した交流学习が行われています。学校のWebサイトとテレビ会議システムを活用した交流学习で、掲示版には英語と日本語、または日本語と韓国語で書き込み、外国語のスキルだけでなく情報発信や受信のスキル習得も目指しています。テレビ会議

では通訳を入れてコミュニケーションを図り、学校訪問などオフラインの人的交流も行われています。



非対面型の交流学习

パートナーを決めてEメールや手紙の交換を行ったり、ビデオレターを作成して送り合ったり、直接会えなくても可能な交流学习の形があります。「個人単位」と「クラス単位」の交流学习に分類します。

①個人単位

Eメールや手紙の交換はクラス単位でも可能ですが、パートナーを決めて個人単位で相互交流する方が一般的ではないかと思います。一人一人の交流の中で発見したことなどをクラスで報告すれば、クラス単位でその情報を共有することができます。Eメール交流では、ハングル入力、カナ入力などのスキルも学ぶことになります。学習の段階に応じて、学んでいる言語と母語の両方で書く、どちらか一方で書く(「読む」あるいは「書く」のスキルに特化する)など使用する言語は選んで良いでしょう。

②クラス単位

クラスでテーマを設定し、資料を作成して交換し合い、それをもとにことばと文化を学ぶという交流学习の形があります。宮城学院高等学校の高大連携の授業では、これまで2つの韓国の高校と、テーマに沿って資料を作成し、交換し合ってきました。自己紹介がテーマのときには写真と自己紹介音声ファイルを挿入したパワーポイント資料を作成したり、学校案内がテーマのときには学校の好きな場所などをめぐりながら紹介するビデオレターを作成したり、名刺を作って送ったり、学習段階に応じてさまざまな活動ができます。交換した資料はそれぞれの教室で教材として使用されます。

